

●「テレビ! DVD! ゲーム!」  
メディアの悪影響から子どもを守ろう

最近、ゲームを持ち寄って遊んでいる子どもを見かけます。友達と一緒にいるのに、会話も無く下を向いてゲームをしている光景を見ると、子どもの成長発達への悪影響が心配になります。

子どもへの悪影響

1. 運動量の減少による体力の低下
2. 会話の減少によるコミュニケーション能力の低下
3. 長時間液晶画面を見ることによる視力の低下

ゲームだけでなく、テレビやDVDの視聴、パソコン・スマートフォンの長時間使用も同様の悪影響があります。

気をつけたいこと

1. 2歳以下の子どもには、テレビ・ビデオを長時間見せないようにしましょう。
2. テレビは見終わったら消しましょう。
3. 乳幼児にテレビ・ビデオを一人で見せないようにしましょう。  
見せるときは子どもの問いかけに応えることができるように近くにしましょう。
4. 授乳中や食事中はテレビをつけないようにしましょう。
5. ビデオの反復視聴はしないようにしましょう。
6. 子ども部屋にはテレビ・ビデオを置かないようにしましょう。  
(社)日本小児科医会「子どもとメディア」対策委員会提言一部抜粋

メディアの影響を親子で理解し、上手に利用することが大切です。  
まずは、家族で話し合い、我が家のルール作りから始めてみましょう。

■タイム・イズ・ブレイン

川口市立医療センター

脳神経外科 部長 古市 眞



脳卒中は日本人の死因の第4位ですが後遺症が残存して要介護になる原因では第1位です。脳卒中には脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞があります。その中で最も頻度の高いのは脳梗塞です。脳梗塞と心筋梗塞はどちらも血管が詰まって生じる病気です。心筋梗塞が死の恐怖を感じるような胸痛で発症するためすぐに救急車を呼ぶのに対して脳梗塞では痛みがないため様子を見てしまうかたが多くなります。しかし、おぼれかけた脳細胞には一刻も早い治療が必要であり緊急性が高い病気です。発症から4.5時間以内であれば薬で血栓を溶かすアルテプラゼ (t-PA) 静注療法が可能であり発症8時間までなら詰まった血栓を物理的に取り除き、脳血管を再び開通させる血管内手術が専門病院でのみ行えます。掃除機のように血栓を吸い込むカテーテル (ペナンプラ) や、ステントで血栓を引きずり出す最新機器が保険認可され、限られた施設でのみ使用可能になりました。

早く治療を受けるほど重い後遺症を免れる可能性があります。タイム・イズ・ブレインといわれる理由です。FASTという脳梗塞のサインがあります。片側の顔面 (Face)、片腕 (Arm) の麻痺、呂律障害 (Speech) が生じたら直ちに (Time) 救急車を要請してください。救急隊が適切に判断して収容可能な病院を選定します。



平和への願いを込めて

昭和20年3月10日未明、「ウウウウウ」長く不気味に響く警報のサイレンが鳴ると、いつくらかわからぬ空襲におびえながら防空壕へ逃げ込んだ。しばらくすると、空襲警報が発令。防空壕から外をのぞくと、真夜中にもかかわらず、南の空だけが明るく、真っ赤に染まっていた。今でもはつきりと脳裏に焼き付いているあの光景は、東京大空襲である。昭和7年、川口生まれの川口育ち。終戦から70年が経過する今でも、つい昨日のように、14歳の記憶がよみがえる。余儀なくされた。午前中に1時間だけ勉強をした後、戦闘機の部品を磨いたり、ゲージの測定や包装などの作業を夕方まで続けた。その間、警戒警報が鳴るたびに防空壕に避難し、友達同士体を寄せ合い、ひたすらじっと全員不安な時間を過ごした。終戦の日を迎えるまでの5カ月間、最後の動員生として働きた。すべてはお国のため。今では考えられない体験でした」と当時を振り返る。終戦60年の節目に、母校の現・川口総合高

校で戦争体験を講演する機会に恵まれた。生徒たちは真剣に耳を傾け、後日手紙が届いた。「私の学校にこんなに恐ろしく、すごい体験をした人がいることを誇りに思います」と純粋な子どもたちの感想がこぼれ出ていた。「この手紙は今でも私の宝物。この言葉が今の私の原動力になっています」。「戦争は二度と繰り返してはならない。つらく苦しかったことを伝えていかなくては」と現在も青少年の育成などにかかわりながら戦争の体験や戦争で亡くなった人びとの想いを語り継いでいる。戦争の本当の恐ろしさは体験した人にしかわからないが、戦争のない平和な未来を願う強い想いは、必ず次の世代に伝わっていく。 (充)



ながせ みつこ  
永瀬 満子さん  
(金山町)

侵入盗被害が急増!



市内では、平成26年中に侵入盗被害が524件発生しました。今年には特に、無施錠箇所からの被害が増えています。被害にあわないために、対策を心掛けましょう。

防犯対策

1 施錠の再確認

就寝前や外出時にもう一度施錠の有無を確認しましょう。また、在宅時にも鍵をかける習慣をつけましょう。

2 防犯グッズの活用

窓に2重鍵を取り付けることや、防犯フィルムを貼ることで防犯効果が上がります。



3 ご近所ネットワークの構築

泥棒は住民の視線を嫌います。ご近所同士で声を掛け合って、泥棒が近寄りにくい環境を作りましょう。

問 防犯対策室 ☎048-242-6361